

## 京セラ株式会社

### 2013年3月期 第2四半期 決算説明会での主な質疑応答内容

(2012年11月2日実施)

#### 【ソーラーエネルギー事業】

- Q：ファインセラミック応用品関連事業の通期予想を、売上高は100億円下方修正、事業利益は6億円上方修正している。同セグメントに含まれるソーラーエネルギー事業の業績を見直した結果だと推察するが、ソーラーエネルギー事業の受注全てが今期業績に寄与するわけではないのか。また、来期のソーラーエネルギー事業のイメージを教えてください。
- A：ファインセラミック応用品関連事業の売上高の下方修正の要因は、約半分がソーラーエネルギー事業、残り半分が機械工具事業である。  
7月より始まった再生可能エネルギーの全量買取制度は、工事が完成しなくても、電力会社との契約が来年3月末まで完了すれば本年度の電力買取価格42円/kWhが適用される。そのため、ソーラーエネルギー事業については、今期に受注しても、売上は来期になる案件もある。ソーラーエネルギー事業の上期実績は想定ほどではなかった。下期の売上は、従来予想に比べそれほど大きくは変わらない。足元では、10月は引き続き受注が好調。  
来期については、電力買取価格に需要は左右されるものの、大きく需要が減るとは考えていない。
- Q：市場が制度に左右されるという来期の環境が見えにくい中で、生産能力はどう計画していくのか。
- A：現在、フル稼働で生産しており、増産も検討している。来期は確実に生産量を増やしたいと考えている。早急に1GWのメーカーになりたいという思いがある。
- Q：ファインセラミック応用品関連事業では、第2四半期は第1四半期と比較して売上は横ばいだが事業利益は改善した。これは、ソーラーエネルギー事業での生産増に伴う稼働益が出ているためと推察するが、ソーラーエネルギー事業及び機械工具事業の動きを教えてください。また、在庫が積み上がってきていると思うが、下期の利益水準をどう考えればよいか教えてください。
- A：ファインセラミック応用品関連事業の第2四半期は第1四半期と比較して売上高は横ばいだが、内訳はソーラーエネルギー事業が若干増加、機械工具事業が若干減少となっている。ソーラーエネルギー事業での価格下落は、ペースは鈍化したものの継続している。当社は事業を行う上でシェアは追わずに確実に利益を出すことを基本としており、海外向けを少し縮小した。

ソーラーエネルギー事業ではこの変化が影響した。  
機械工具事業は、自動車メーカーが第2四半期も好調であったと認識している。しかし、下期は減速する見通しを持っている。  
利益の改善については、ソーラーエネルギー事業の回復が要因としては大きい。第2四半期はしっかりと利益を出すことができた。利益改善の要因としては、生産性の向上、部材費の低減等が着実に進んでいることが大きい。  
ソーラーエネルギー事業の利益率は5%~10%が目標となる。

#### 【通信機器関連事業】

Q：通信機器関連事業の下期予想は、上期に比べ売上高が323億円増加、事業利益が46億円の増加となっているが、国内、海外の各事業がどのようになると考えているのか教えてほしい。

A：下期は、海外向けで伸ばす計画。いろいろなモデルが予想以上に売れており、キャリアからの需要は強い。防水機能や工事現場等で使われるプッシュ・トゥー・トーク機能が付いたモデルが人気を博している。プッシュ・トゥー・トーク機能端末の分野でのシェアは7割を超えていると思われる。既に販売実績のあるモデルで着実に受注を伸ばしていることから、下期の売上が増えると計画した。

利益については、上期に在庫評価損を計上したが、下期になくなることが利益改善の要因。

Q：海外展開に関して、キャリアの拡大に取り組まれていたと思うが、どの国でどのように取り組んでいるのか。

A：南米、中国、東南アジアでの事業展開を図るため、市場調査は継続して実施している。しかし、まずは北米で実績をあげてから他国へ展開していこうと考えている。実績が出ないのに規模だけ拡大することはしない。

Q：新規キャリアの開拓はどうか。

A：実際に引き合いは来ており、来年、新規キャリアへ出すことを計画している。

Q：プッシュ・トゥー・トーク機能付きのモデルが売れ行き好調とのことだが、これは2013年6月のiDENネットワークのサービス停止に伴い、巻き取り需要があるためではないのか。好調さは来期につながるものと考えてよいのか。

A：来期の海外事業については、新規キャリアへのモデル投入が決定しており、また、他キャリアからの話も来ている。来期のプッシュ・トゥー・トークモデルの減少分を補ってもプラスになるものと考えている。

Q：通信機器関連事業の90億円の事業利益予想を62億円まで下げているが、下方修正の要因を教えてください。また、業績予想の達成は、現時点でどの程度の確度があるのか。

A：上期に在庫処理を行ったことが要因としては大きい。在庫評価損を含めて上期の実績が想定よりも低かったことが通期業績予想修正の要因。売上に関しては、下期に大きく売上を伸ばすという計画は期初から変わらない。海外向けモデルで売上を伸ばし、増収効果で利益増を図る。

#### 【部品事業】

Q：半導体部品関連事業について、第1四半期から第2四半期にかけての改善はスマートフォン向けセラミックパッケージの需要増とのことだが、下期の動きはどう考えればよいか。有機パッケージも併せて教えてください。

A：大局的にはスマートフォン向けで数量が増えていると考えられる。通信関係、サーバー関係など総じて状況は良かったが、特にスマートフォンが良かった。下期は、有機パッケージの動きが良くない。また、中国ローカルのデジタルコンシューマ機器メーカーの動きが弱い。デジタルコンシューマ機器全般としてあまり状況は良くない。

Q：足元で事業環境が悪化していると思われるが、10月の状況はどうだったのか。

A：10月全体の需要は、想定よりも若干低かった。足元で弱含んでいるのは自動車関連。欧州の状況が悪い。また、半導体製造装置関連が低調。デジタルコンシューマ機器関連は、スマートフォン向けの需要増加が牽引役となっているが、全体的にはそれほど活況ではない。携帯電話の分野では、以前は中国のローカルメーカーが非常に活況だったが、現在は以前ほどの動きは見られない。

#### 【情報機器関連事業】

Q：欧州市場の低迷の影響を懸念している。下期の見通しを教えてください。

A：業界での規模は小さいが、利益率は10%近くを出している。官公庁やビジネスユーザー向けの展開が中心となる。通常、客先の予算の関係で中間期末や期末に売上が増加する傾向があるが、第2四半期は想定していたほどではなかった。10月は、例年よりも若干弱いという印象。今後も低調な動きが続くのか分からない部分もあるが、経済環境に左右される。

【M&A】

Q：M&Aについて、良い機会があれば考えると以前から伺っている。京セラの事業ポートフォリオ上で、例えば機器事業等、伸ばしたい技術等はあるか。

A：今でも当社には色々な話があるが、機器事業、部品事業といったこだわりはない。M&Aを行ってでも業績を向上させていくことが務めだと考えている。

以上